

B型肝炎抗体検査(HBs抗体検査)について

B型肝炎抗体（HBs抗体）はHBs抗原に対する中和抗体で、B型肝炎ウイルスの感染を防御します。

B型肝炎ワクチン基礎接種（1シリーズ3回）後にHBs抗体の血中濃度が10mIU/ml以上（CLEIA法またはCLIA法）に達した場合、免疫獲得したと見做されます。免疫獲得者は30年以上にわたって急性肝炎や慢性B型肝炎の発症予防効果が認められており、経年による抗体価低下にかかわらずこの効果は持続するため、**以降の抗体検査や追加のワクチン接種は必要ない**と判断されます。

<結果の見方>（CLEIA法またはCLIA法）

10mIU/ml以上 感染防御能を持つ抗体価▶免疫獲得をしたと見做します。

10mIU/ml未満 感染防御能を持つ抗体価に達していませんので、B型肝炎ワクチン基礎接種（1シリーズ3回）後の場合には、もう1シリーズ（3回）の基礎接種または追加接種が必要です。ただし、過去に一度でもHBs抗体価が10mIU/ml以上となったことがある場合には、追加のワクチン接種は必要ありません。

Q B型肝炎基礎接種を2シリーズ（計6回）しましたが、抗体価は10mIU/ml未満でした。追加でワクチン接種すべきでしょうか？

A 追加のワクチン接種は推奨していません。2シリーズ接種後でも10mIU/ml未満だった場合はそれ以上の追加接種でも感染防御能を持つ抗体価に達しないことが多いため、血液・体液曝露に際しては「ワクチン不応者」として嚴重な対応と経過観察を行うことになります。

（参考）

日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版
慶應義塾大学保健管理センター 医療系学部実習前感染症対策ハンドブック



ガイドライン



実習前ハンドブック

検査結果の記録は大切に保管しましょう